

日英教育学会 JAPAN-UK EDUCATION FORUM NEWSLETTER No.52 2018/12/18	日英教育学会事務局 〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13 東京成徳大学子ども学部 青木研究室内 TEL 03-5948-4464 jimukyoku@juief.sakura.ne.jp
--	---

ごあいさつ

日英教育学会・代表 広瀬 裕子（専修大学）

上田学前代表から代表を引き継いで新しい体制になってから約1年が過ぎました。まだ試運転の部分が多々あります。

良くも悪くも、当学会は長らく大田直子さんの個人的な尽力に負うところが大きく、そのことは多く会員が知るところです。大田さんの人脈やアレンジによって、大会には毎年のようにイギリスの著名な研究者がゲストとして参加してくださいましたし、学会の運営も小回りを効かせた臨機応変なものでした。こうした特徴はこの学会の魅力ではあり強みでもありました。

しかし、特定の個人の尽力に負う魅力と強みは、それゆえのリスクと表裏します。大田さんが突然に逝去された後、そのリスクは現実のものとなりました。学会運営の各種情報がどこにどのようにあるのか、組織的な形で必ずしも十分に共有されていなかったために、学会の運営はほぼ全ての領域で一時期頓挫することになりました。

急遽後を引き継いでくださった上田前代表のもとで、学会の運営は墜落することなくキープされ、ようやく軌道に乗ってきたところです。『英国の教育』の出版で士気も上がりました。

次の段階は、組織として動ける学会にすることだと思っています。属人的にではなく組織として動ける学会です。とはいえ、杓子定規な運営になってしまっは小規模である学会のメリットも死んでしまいます。会員の特性が生きる運営をしつつ公正性と公開性を持ち、しかも何よりもアカデミックな学会として魅力的でなければなりません。

活動の基盤である財政規模を大きくするためにも会員数の拡大は必須ですが、並行して隣接組織なども連携しながら多様な方法を用いて活動内容を豊かにしていければと思っています。引き続き、会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

日英教育学会 第27回年次大会報告

【公開シンポジウム・自由研究発表】

平成30年8月27日（月）13:00～8月28日（火）の二日間にわたり、実践女子大学渋谷キャンパスにて、第27回日英教育学会大会を開催することができました。皆様の多大なご協力に、改めて篤く御礼申し上げます。

大会初日の午後には、「スタンダード化時代の教育リーダーシップ」をテーマとした公開シンポジウムを実施いたしました。

本シンポジウムの主要なテーマである「教育のスタンダード化」は、グローバルな教育改革の一つのキーワードとして、先進諸国で一般的にみられるようになってきました。日本も例外ではなく、学校教育の諸相に細かく基準が設定され、数値目標を達成するよう学校や教師に強い圧力がかけられるようになってきました。本シンポジウムはそうしたスタンダード化の是非を問うことを大きな目的として行われました。こうしたスタンダード化の圧力を受けている対象が、学校リーダーシップ（校長としての在り方や学校運営の手腕など、広く校長の資質、能力を含む）であり、本シンポジウムにおいては、英国における学校リーダーシップ研究の第一人者であるヘレン・ガンター教授の基調講演、また、東京大学大学院勝野正章教授、困難集中地域における学校改善に成功し全国的にも注目を集めている福岡市教育センターの元主浩一氏（元福岡市立東光中学校校長）の二人のパネリストの報告によって、英国の学校のリーダーシップのあり方に生じてきた変化、また、日本における教育改革のプロセスと成功の要因、その際の組織編成上の在り方について具体的な情報が提供され、これらの発表について、日英両国の学校リーダーシップの比較研究の立場から、論点が提起されました。

ガンター教授が特に問題にしているのは、数値目標の設定とその達成が学校教育の目的と化してしまい、現場が「唯一最良の」教育方法によって支配されてしまうことです。多様な能力や関心、特性を有する子どもに対する教師のテーラーメイド的な対応の価値が引き下げられてしまい、その結果、教育



改革によって子どもの幸福が減じられてしまうことが懸念されてきました。一方で、元主氏の改革は学校全体の教育方法を全面的に変えるというラディカルなものでした。そのため、改革の

開始当初は一部の教師はその方法を受け入れられず、場合によっては当該教員に転勤を促すことを余儀なくされたこともあったそうです。そうしたなかで学校の顕著な改善を実現するために、校長としての考え方を繰り返し教師と生徒に対して示し、また、対外的には教育成果を数値エビデンスとして示しながら、改革を進めていきました。元主氏の例は、数値上の目標を外部から与えられるのではなく、自らの実践の効果を数値によって証明しつつ正当化するという学校リーダーシップの卓越した事例であると考えられます。その意味で、最近の学校リーダーシップ改革の一つの対抗的モデルとなりうるものであるということができ



るのではないのでしょうか。

シンポジウムでは、上記したような問題をめぐり、ゲストスピーカー、パネリスト、及び参加者の中で大変有意義な議論ができたといえるのではないかと思います。

日英教育学会大会二日目の自由研究発表においては、清田夏代会員「新自由主義的文脈における学校リーダーシップに関する一考察—リーダーシップ像の変容に関する研究の諸課題—」、橋田慈子会員「学校理事の学習活動を基盤にしたインクルーシブな学校づくり—ロンドン・ランベス地区を事例に」、樋口真須人会員「英国の中等教育における実験活動の新保証システム」、伊東（青木）敬子会員「1970～1980年代の伝統文学教育とコモン・リーダー（文学教育の役割と道徳教育について）」の4件の自由研究発表が行われました。今回も英国の多様な領域を対象とする研究が発表され、今後英国研究がますます発展していくことが期待されるのではないかと感じました。

(清田夏代)

【総会報告】

大会二日目に開かれました総会での報告及び決定事項については次のとおりです。

1. 報告事項

(1) 会員数 (2018年7月31日現在) 100名

入会者9名、退会者6名、逝去者1名 (2017年8月1日以降2018年7月31日まで)、除籍者3名 (2018年3月末除籍、2015年度以降会費未納)

(2) 2017年度会務報告

- ①紀要第 21 号の発行、②ニューズレターの発行：49 号（2017 年 7 月 4 日）、50 号（2017 年 12 月 18 日）、③運営委員会

第 1 回	第 2 回
日時：2017 年 8 月 28 日 場所：千里金蘭大学 議題：年次大会総会にかかる議案の審議	日時：2017 年 11 月 12 日 場所：専修大学神田校舎 議題： 1) 2018 年度大会について 2) J-stage への掲載について 3) 事務局移転状況について 4) 年間スケジュールについて 5) 紀要の発行について

(3) 2017 年度研究活動

①『英国の教育』（東信堂、2017 年 5 月）の出版

②実践女子大学主催・日英教育学会共催シンポジウムの開催

開催日：2018 年 1 月 27 日

場所：実践女子大学渋谷キャンパス

テーマ：「就学前教育における評価のこれから—英国 SSTEW スケールを通して考える—」

基調講演：デニス・キングストン（サセックス大学）

パネリスト：梶瑞希子（聖徳大学）、小玉亮子（お茶の水女子大学）、井口眞美（実践女子大学）

企画者：清田夏代（実践女子大学）、石黒万里子（東京成徳大学）

2. 審議事項

(1) 2017 年度決算（別表参照）

柿内真紀会員、石黒万里子会員の会計監査報告とともに承認されました。

(2) 2018 年度の活動計画

①紀要第 22 号の発行、②紀要の公開：学会 HP 上での公開、J-STAGE 上での公開、③『英国の教育』の広報、④2019 年度の大会について（日程：8 月 26 日（月）～27 日（火）、会場：福岡大学）、⑤研究会の開催、⑥科研の申請

(3) 2018 年度予算（別表参照）

(4) その他：選挙規程第 5 条の変更について（新たに学生会員の種別を設けた 2017 年 8 月の会則改正を受けて、選挙規程第 5 条「選挙及び被選挙権有資格者は、改選の年の 4 月末の時点で一般会員とする。」という現行規定を「選挙及び被選挙権有資格者は、改選の年の 4 月末の時点で一般会員および学生会員とする。」に改正した。）

(青木研作)

2017年度決算

一般会計(収入)		予算	決算	決算-予算	備考
繰越金		-99,280	-99,280	0	
会費収入		600,000	587,000	-13,000	
	当該年度		540,000	514,000	-26,000
	過年度		60,000	66,000	6,000
	2018年度以降		0	7,000	7,000
寄付		0	0	0	
紀要売上		0	0	0	
銀行利息		0	0	0	
その他		0	0	0	
計		500,720	487,720	-13,000	
2017年度会費支払者数=87名 6,000円×85+2,000円×2					
一般会計(支出)		予算	決算	予算-決算	備考
会合費		75,000	11,880	63,120	
人件費		10,000	0	10,000	
消耗品代		5,000	8,642	-3,642	
HP作業費		5,000	0	5,000	
HP維持費		2,000	1,651	349	
通信費		5,000	1,720	3,280	
NL編集費		0	0	0	
NL発送費		25,000	32,640	-7,640	
NL印刷費		0	0	0	
紀要21号編集印刷		350,000	362,858	-12,858	
紀要発送費		25,000	15,852	9,148	
研究費		0	0	0	
17年度大会開催費		40,000	40,000	0	
17年度ゲスト招聘費		30,000	30,000	0	
教育関連学会連絡協議会費		10,216	10,216	0	
学会積立金		0		0	
予備費		-81,496	30,680	-112,176	
計		500,720	546,139	-45,419	
繰越金		487,720-546,139=-58,419			
特別会計		予算	決算	差し引き	備考
収入	繰越金	425,884	425,884	0	
	学会積立金	0	0	0	
計		425,884	425,884	0	
支出	選挙費	25,000	24,064	936	
	出版準備費	400,000	400,000	0	
計		425,000	424,064	936	
繰越金		425,884-424,064=1,820			

2018年度予算

一般会計							
収入			2017年度予算	2017年度決算	決算－予算	2018年度予算	備考
	繰越金		-99,280	-99,280	0	-58,419	
	会費収入	当該年度	540,000	514,000	-26,000	674,000	8,000×80 6,000×5 2000×
		過年度	60,000	66,000	6,000	60,000	6,000×10
		翌年度以降	0	7,000	7,000	0	
	その他		0	0	0	0	寄付等
	計		500,720	487,720	-13,000	675,581	
支出			2017年度予算	2017年度決算	予算－決算	2018年度予算	備考
1	会合費		75,000	11,880	63,120	75,000	
2	人件費		10,000	0	10,000	10,000	
3	消耗品代		5,000	8,642	-3,642	10,000	
4	HP作業費		5,000	0	5,000	5,000	
5	HP維持費		2,000	1,651	349	2,000	
6	通信費		5,000	1,720	3,280	2,000	
7	NL編集費		0	0	0	0	
8	NL発送費		25,000	32,640	-7,640	25,000	
9	NL印刷費		0	0	0	6,000	
10	紀要22号編集印刷		350,000	362,858	-12,858	350,000	
11	紀要発送費		25,000	15,852	9,148	20,000	
12	研究費		0	0	0	0	
13	18年度大会開催費		40,000	40,000	0	50,000	
14	18年度ゲスト招聘費		30,000	30,000	0	0	
15	教育関連学会連絡協議会費		10,216	10,216	0	10,216	
16	学会積立金		0	0	0	60,000	
17	予備費		-81,496	30,680	-112,176	50,365	
	計		500,720	546,139	-45,419	675,581	
特別会計							
収入							
	繰越金		425,884	425,884	0	1,820	
	学会積立金		0	0	0	60,000	
	計		425,884	425,884	0	61,820	
支出							
	選挙費		25,000	24,064	936	0	
	出版準備費		400,000	400,000	0	0	
	計		425,000	424,064	936	0	
繰越金						61,820	

2018年度 運営委員会報告

(1) 2018年8月27日、実践女子大学にて、第2回運営委員会が行われ、年次大会総会にかかる議案を審議しました。

(2) 2018年11月23日、専修大学神田校舎にて、第3回運営委員会が行われました。概要は次のとおりです。

議題

① 紀要第23号について

② 2019年度大会（福岡大学）について

高妻委員より、2019年8月26日（月）～27日（火）の日程で実施したいとの提案がありました。了承された。シンポジウムについては、英国教育史研究をテーマとする方向で準備を進めているとの報告があった。

③ 年間スケジュールについて

④ 紀要編集委員会体制について

⑤ 会則第4条の紀要送付規定について

青木事務局長より、紀要発送作業の煩雑さの解消、ならびに発送費の削減を目的として、会費の納付の有無に関わらず全会員に一斉に紀要発送を行うことが出来るように、会則第4条の「当該年度の会費未納者に対しては、紀要が送付されない。」という一文を削除したいという提案が行われた。運営委員会で異論は出されなかったため、次年度の総会で会則変更の提案を行うことになった。

⑥ 日本学術会議からのメールについて

広瀬代表より、現在、日本学術会議からのお知らせの多くを会員にメールで転送しているが、今後はメール配信はせずに学会ホームページに掲載してはどうかとの提案があり、承認された。

(青木研作)

紀要編集委員会からのお知らせ

日英教育学会紀要『日英教育研究フォーラム』第23号（2019年8月発行予定）の自由投稿論文を募集します。編集委員会としては次号の総頁数のおよその見当をつけたいと思いますので、投稿の意思のある方は2019年1月末日までに、氏名・所属・論文タイトル（仮のものでかまいません）をメールでお知らせください。なお、投稿の意思表示がなくても、ご投稿いただけます。論文の投稿の締め切りは2019年3月末日です。

投稿意思表示および投稿論文の提出先は「日英教育研究フォーラム紀要編集委員会」kiyou@juief.sakura.ne.jp です。投稿論文のテンプレート及び投稿規定は日英教育学会 HP (<http://www.juief.sakura.ne.jp/newsletter.html>) でご確認ください。

(高妻紳二郎)

第28回(2019年度)年次大会について

①開催予定日:2019年8月26日(月)、27日(火)

場所:大会会場=福岡大学附属図書館多目的ホール(下記参照)

懇親会会場=フォレスト(福岡大学図書館1階)予定

運営委員会・シンポ打ち合わせ会場=福岡大学附属図書館6階ゼミ室

②会費

(1) 大会参加費 3,000円

(2) 懇親会費 3,000円

③ 2日間のスケジュール(案)

第1日:8月26日(月)

11:00~12:30	運営委員会	図書館6階 大学院ゼミ室A
12:30~	受付	図書館1階多目的ホール前
14:00~17:00	シンポジウム	図書館1階多目的ホール
17:30~19:00	懇親会	フォレスト

第2日:8月27日(火)

9:00~	受付	上記
9:30~11:20	研究発表	図書館1階多目的ホール
11:30~12:30	総会	〃
14:00~16:00	福岡市立中学校訪問(予定)*学び合いとICT利活用	

【シンポジウム】 8月26日(月) 13:00~17:20

「英国教育史研究の軌跡と展望～歴史を紐解く時間」(仮)

日本における英国教育研究は、近年の大きな教育改革の影響が随所にみられることを受け、研究者の興味関心は細分化しつつも研究知見が豊かに蓄積されてきている。ただ、細分化するが故に「ではのかみ」と称されるように、部分的あるいは断片的な紹介にとどまることもある。もちろん、今日の英国教育をめぐる急速な環境変動を追いつつその性質を的確に把握する必要があることは言うまでもないが、矢継ぎ早の改革が実行されており、それぞれの功罪を、短期間で緻密に事前事後検証することはもはや困難である。とは言え、政治・一般行政レベルはもとより日本の教育システムの企画・実施プロセスにおいて英国の類似システムが参照されることもこれまでも数多く、日本へ応用可能な施策やその実施状況を随時紹介することもまた私たちの責務である。

かかる今日的状況のもと、歴史研究の成果が今後の教育を導く、欠陥を是正する、あるいは何らかの示唆を与え得るのかという視座に立てばそれはなかなか現実には困難ではあるが、歴史の延長線上に今日があり、それを「跡付ける」学術的な意義は極めて高いまま今日に至っていると思われる。英国の政治行政システムも長年の伝統を背景に有し、例え教育制度に関わる大規模な

変革であっても、当の英国人（研究者）は泰然と臨んでいることに驚かされることもある。リーダーシップ研究や組織・カリキュラムマネジメント研究等が隆盛を誇る今日、歴史研究は英国本国においてもサッチャー改革の余波を受けて以来、財政抑制による制約もあり低調というべき状況にあった。日英教育学会でも久しく歴史研究をテーマとして取り上げていなかった状況に鑑みて、本大会では改めて英国教育史研究に光を当ててみたい。目まぐるしい変革が続き息つく暇もない今日であればこそ、英国の歴史的文脈に改めて触れることで私たち英国教育研究者の「目が肥える」機会になれば幸いである。

そこで本大会は福岡大学で開催することもあり、英国史研究の重鎮である松塚俊三先生（福岡大学名誉教授）から英国教育史研究のだいご味を、そして香川せつ子会員（西九州大学）から永年の女性教育史研究についてそれぞれ講話いただくことにしている。改革疲れも看取される現在からいったん歴史を遡り、英国教育史研究の意義を再度会員で共有し、特有の伝統を味わえるようなシンポジウムになればと思っている。

14：10～15：20

松塚俊三（福岡大学名誉教授）

自伝研究にみる「学び」の歴史性—イギリス労働者階級は何をどう学んだか—

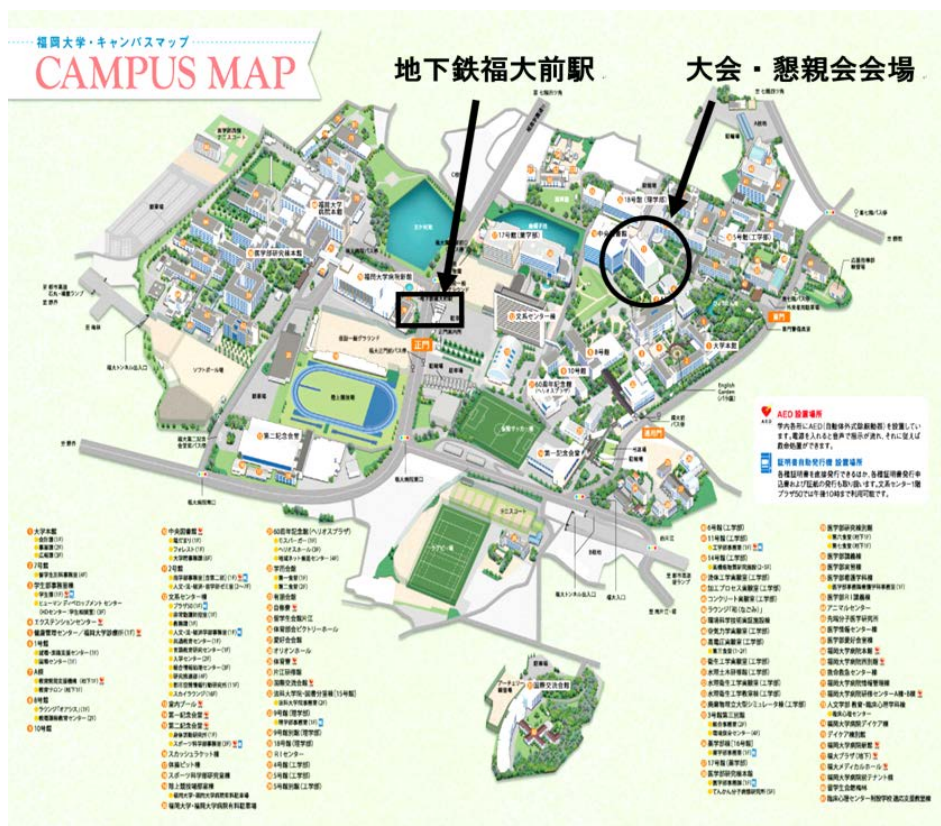
15：30～16：40

香川せつ子（西九州大学）

英国女性教育史研究（仮）

16：50～17：20 共同討議

進行： 高妻紳二郎（福岡大学）、中村勝美（広島女学院大学）



(高妻紳二郎)

連載 第3回 英国教育研究アーカイブス

—木村先生蔵書のリスト化計画2—

前号より故木村浩先生の蔵書リストをお知らせしております。木村先生からお預かりした段ボールは6箱ありまして、そのうちの2箱目をご紹介します。以下にご紹介する資料にご興味がおありの場合は、学会事務局 (jimukyoku@juef.sakura.ne.jp) までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

※書名に続く (unknown) は出版年不明、(copied)は冊子ではなくコピープリントの状態であることを指す。

1 大学カレンダー

Brunel University

Annual Report January to December, 1971
Prospectus First Degree Courses 1972-3,
1973-4

Cranfield Institute of Technology

Prospectus 1972-73
Annual Report 1972

King's College London

General Prospectus of Undergraduate
Courses Issued 1969

The University of Bristol

Annual Report of Council to Court 1956-7
Annual Report of Council to Court and
Statement of Accounts 1971-2
Department of Architecture 1972
Faculty of Arts Prospectus 1961-2, 1972-3
Faculty of Engineering Prospectus 1962-3,
1972-3
Faculty of Law Prospectus 1972-3
Faculty of Medicine Prospectus 1962-3, 1972-
3
Faculty of Medicine (Dental Surgery)
Prospectus 1962-3
Faculty of Science Prospectus 1962-63
Faculty of Social Science Prospectus 1972-3,
1973-4
General Prospectus and Entrance
Requirements 1965-6
General Prospectus and Regulations for
Matriculation 1957
General Prospectus 1972

University of Cambridge

Admissions Prospectus 1973

Prospectus of Cambridge Classical Courses
1972-3, 1973-4

(1)Christ's College, Cambridge

Information for candidates for admission

(2)Fitzwilliam College, Cambridge

Notes for Freshmen 1972-3
Regulations for Students 1972

(3)Magdalene College, Cambridge

Leaflet 1973-4

(4)Wolfson College, Cambridge

Information Booklet 1973

University College of South Wales and Monmouthshire Cardiff

Handbook 1964-5

University College London

Prospectus of First Degree Courses 1970-1
(Copied)

University of Kent at Canterbury

Prospectus for Admission in October 1973
Seventh Report of the Vice-Chancellor
December 1972

The University of Leeds

(1)Prospectus

Applied Mineral Sciences in the Houldsworth
School of Applied Science 1965
Civil, Mechanical and Electrical Engineering
1962-3, 1964-5
Courses and Careers in Technology 1953
Courses in Pure Science 1952
The Department of Agriculture 1965
The Department of Color Chemistry and
Dyeing 1962, 1965

- Department of Chemical Engineering in the Houldsworth School of Applied Science Prospectus 1966
- Department of Metallurgy in the Houldsworth School of Applied Science 1965-6
- Department of Textile Industries 1962The Faculty of Arts 1957-8, 1962-3, 1965-6
- The Faculty of Economic and Social Studies 1957, 1962-3, 1965-6
- The Faculty of Law 1957, 1962, 1965
- The Faculty of Science 1957-8, 1962-3, 1965-6 Fees 1962, 1965
- General Regulations and Fees 1957-8
- General Regulations 1962-63, 1965-6
- The Houldsworth School of Applied Science
- Department of Gas Engineering and General Fuel Science
 - The Department of Ceramics
 - The Department of Metallurgy
 - The Department of Chemical Engineering 1962, 1965
- Mechanical Engineering Prospectus 1964-5
- The Procter Department of Food & Leather Science 1962
- Residence for Men Students 1963
- Scholarships and Fellowships 1962-3
- The School of Dentistry 1957-8, 1962-3, 1965-6
- The School of Medicine 1957-8, 1962-3, 1965-6
- The Sixty-First Annual Report 1971-72
- University Studies in Pure Science, An Introduction to the Degree Courses in the Faculty of Science, 1965
- University Studies in Applied Science and Technology, An Introduction to the Degree Course in the Faculty of Technology, 1965
- (2)Leaflet
- Astbury Department of Biophysics (unknown)
 - Computational Science in First Degrees (unknown)
 - Department of Electrical and Electronic Engineering – Undergraduate Courses (unknown)
 - Development Administration - New Diploma Course 1965-6
 - Earth Sciences 1965
 - Graduate Studies in Philosophy (unknown)
 - Studies in Applied Science and Technology(unknown)
- University of Lancaster**
- Prospectus 1963-64, 1965-66, 1966-67, 1973-74
 - School of Business and Organizational Studies (unknown)
 - Lancaster (School Pamphlet) 1972
 - Eighth Annual Report presented by the Vice-Chancellor to the Meeting of the University Court on December 9th 1972
- The University of Liverpool**
- General Prospectus 1962-3
- University of London**
- Imperial College of Science and Technology Calendar 1978-79
 - School of Oriental and African Studies Calendar 1964-65, 1965-66
- 2 一般書籍**
- Associated Examining Board for the General Certificate of Education, *Regulations and Syllabuses 1958*, London, 1958.
 - Cambridge University Press, *The Student's Handbook to the University and College of Cambridge 1964-65*, Cambridge, 1964
 - David H. Russell, Doris Gates, and Constance M. McCullough, *Roads to Everywhere*, New York, 1953.
 - George Willard Frasier, *The How and Why Club (The Scientific Living Series)*, New York, 1949.
 - Paul R. Hannna, Gladys Potter, and William S. Gray, *Without Machinery*, New York, 1939.
 - The School Government Publishing Co., Ltd, *The Education Authorities Directory and Annual 1961*, London, 1961.
 - The Universities Central Council on Admissions, *How to Apply for Admission to a University October 1982 entry*, Cheltenham, 1981.

以下、次号に続く。

(宮島健次)

学会会費をお支払いください

学会会費が未納の方につきましては、会費請求書を同封いたしました。

また、規定に基づき、三カ年会費未納の方は、除籍されます。くれぐれもご注意ください。

※2018年度より会費が**8,000円**となっておりますので、お間違えのないようお願いいたします（学生会員は6,000円です）。

日本学術会議からのお知らせメールについて

日本学術会議から送られてくるニュースメールのうち、本学会会員に関わりのある内容を選び、全会員に一斉メールで転送しておりましたが、今後はメール配信は行わず、学会ホームページに掲載することにいたします。関心のある方は学会ホームページを時折チェックしていただけますと幸いです。

美味しそうなビールがたくさん登場するテレビドラマが今クール放送されており、最近では日本でもいろいろな種類のエールビールが作られていることを知りました。「ビール離れ」が進んでいると聞いていましたが、嗜好の多様化を受けての日本におけるビール文化の発展とみるべきなのかもしれません。エールビールの本家のイギリスでも近年、クラフトビールブームが起こっており、多様なビールが作られているそうです。イギリスに行かれる際はいろいろな種類のビールを味わってみてはいかがでしょうか。

本ニューズレターでは8月に開催された27回大会のを中心にお知らせしました。清田会員をはじめ関係の方々のご尽力で大変すばらしい大会となりましたこと、あらためてお礼申し上げます。さて、次年度の大会ですが、場所は福岡大学ということですので総会ではお伝えしておりましたが、日程が8月26日（月）～27日（火）に決まりました。本学会の年次大会が九州で開催されるのは初となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（青木研作）

日英教育学会 (Japan-UK Education Forum) 代表 広瀬 裕子

◆事務局 〒114-0033 東京都北区十条台 1-7-13

東京成徳大学子ども学部・青木研究室内 TEL 03-5948-4464

◆問い合わせ先 jimukyoku@juéf.sakura.ne.jp

◆郵便振替 00170 2 780381 日英教育学会

◆三井住友銀行 武蔵関支店 総合 6651815 日英教育研究フォーラム事務局長 青木研作